

平成17年度病害虫発生予報第12号

平成18年 3月 2日
鳥取県病害虫防除所

予報の概要 [参考]

区 分	農 作 物 名	病 害 虫 名	予 想 発 生 量
普通作物	イ ネ	ばか苗病 イネシンガレセンチュウ	少 ない やや少ない
果 樹	ナ シ	黒斑病 ハダニ類 カメムシ類	平 年 並 やや多い やや多い

気象予報 (抜粋)

1か月予報(2月25日～3月24日:2月24日、広島地方气象台発表)
向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

<可能性の大きな気温経過>

期 間	平均 気 温
2月25日 ~ 3月 3日	平 年 並
3月 4日 ~ 10日	平年並か高い
3月11日 ~ 24日	平 年 並

普通作物

[イ ネ]

1 ばか苗病

(1) 予報の内容

発生地域 県内全域
発生時期 平 年 並 (育苗期)
発生量 少 ない

(2) 予報の根拠

ア 昨年の発生は少なかったため、本年用種子の保菌率は低いものと推測される。
イ 耐性菌に対する防除効果の高い薬剤が普及している。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 前年の発生ほ場から採取した物は、種子として使用しない。
イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。なお、使用済み薬液は適正に処理すること。
ウ 種子消毒(浸漬処理)にあたっては、薬液がよく浸透するように網袋にゆとりをもたせて、十分にかき混ぜる。また、薬液の温度が10以下にならないよう注意する。消毒後の浸種は停滞水中で行い、水の交換は原則として行わないが、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときは静かに換水する。

2 イネシガラレセンチュウ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

昨年の本虫による葉先枯れ症状の発生はやや少なかったため、汚染率は低いものと推測される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 前年の発生ほ場から採取した粕は、種子として使用しない。
- イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。なお、使用済み薬液は適正に処理すること。
- ウ 低濃度長時間浸漬の場合、ばか苗病防除薬剤と本虫防除薬剤の混用により同時防除が可能であるが、各薬剤の使用濃度が異なるので注意する。

果 樹

[ナ シ]

1 黒斑病

(1) 予報の内容

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 本年のナシ園における越冬菌密度調査の結果によると、側枝上の枝病斑数及び腋芽の病芽率は平年を下回ったが、短果枝の病芽率はほぼ平年並であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 3月中に枝病斑削り取り後のトップジンMペーストによる塗布作業を徹底して行う。特に、枝病斑は2～3年生部分の側枝に集中して形成されているので、側枝全体をよく見て病斑の削り取りとトップジンMペーストの塗布を行う。
- イ 3月下旬～4月(発芽期～開花前)になると、芽の動きから病芽がはっきりと判別できるようになるので、この時期に園内を2～3回見回り、短果枝および腋芽の腐れ芽を徹底して取り除く。
- ウ 薬剤は、発芽期にアントラコール顆粒水和剤500倍液を散布する。さらに、りんぼう脱落直前にデランフロアブル1,000倍液、開花始めにジアリン水和剤600倍液またはジラム・チウラム(パルノックスまたはダイボルト)フロアブル500倍液を散布する。

2 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

- ア 県内巡回調査園におけるハダニ類の越冬密度は、クワオオハダニ越冬卵が平年よりやや多く認められている。また、一部のナシ園ではカンザワハダニの越冬数が多いほ場がみられる。
- イ 気象予報によると向こう1か月の気温は平年並か高いと予想されており、発生時期は平年並と見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 枝、樹皮、誘引なわ等に越冬虫が多く認められるナシ園では、春先の蕾や幼葉での被害が予想される。特に、昨年ハダニ類の発生が多かった園や短果枝にクワオオハダニの越冬卵が多い園では注意する。

イ 昨年の秋期以降、ハダニ類の防除を行っていない園では3月15日頃までにハーベストオイル50倍液を散布する。なお、発芽期にアントラコール顆粒水和剤を散布するナシ園では、ハーベストオイルとの散布間隔を10日以上あける。

3 カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

クサギカメムシの越冬成虫数は(簡易小屋トラップ)、トラップ当たり13.4頭(平年:7.9頭)で、平年よりやや多い。また、過去10年間では平成12年に次いで越冬密度が高い。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 山際および作業小屋周辺では、越冬成虫による幼果の被害が懸念されるので、3月下旬までに果樹園内の小屋をきれいに清掃し、成虫を見つけ次第捕殺する。

イ 例年春先に加害を受ける園や、昨年秋期に家などにクサギカメムシが多く飛び込んできた地域では、ほ場を定期的に見回るなど注意を怠らないように徹底する。

[おしらせ]

農薬は、農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。詳しい内容は、独立行政法人 農薬検査所の「農薬登録情報検索システム」から検索できます。(<http://www.acis.go.jp/>)

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、
周辺への飛散には充分注意しましょう。

《鳥取県病害虫防除所ホームページ》

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>

病害虫の発生予察情報、現地巡回調査結果などの指導情報、病害虫の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

鳥取県病害虫防除所

〒680-1142 鳥取市橋本 260

TEL : 0857-53-1345、FAX : 0857-53-5647

E-mail : byogaichu@pref.tottori.jp 又は kttr0301@sp.jppn.ne.jp

今年度の予報は今回で最終となります。次回、平成18年度予報第1号の発表は、4月6日(木)の予定です。

